

第2回バスタ新宿の管理運営に関する検討会 議事概要

1. 日 時：令和7年3月21日（金）15時～
2. 場 所：東京国道事務所 第二会議室
（東京都千代田区九段南1丁目2番1号 九段第3合同庁舎15階）

<委員からの主な意見>

■昼間の空き枠等の有効活用

- ・バス運転手は不足しており、バス便の増加よりも乗車率を高める工夫は期待できる。
- ・昼間の空き枠の定期観光バスの活用や空き待機バスの駐車場としての活用は新しい使い方となるため、新宿高速バスターミナル会社としてはどう対応するのか。
- ・定期観光バス乗り入れについては、ニーズがありバス会社と調整協議を進めている。
- ・待機バスの駐車場としての活用について、実証実験中であり、引き続き確認していく。
- ・定期観光バスの乗り入れにあたっては、既存のバスに影響が無いように運行管理をすべき。

■インフラツーリズムの取組

- ・訪日外国人観光客向けにオンライン販売プラットフォームやインフォメーションの充実が重要。WEB予約や英語での案内は心強い。
- ・訪日外国人観光客向けなど、オンライン販売プラットフォームが整備されることにより更に地方観光振興支援につながる可能性がある。朝に満員で来る木更津発便の帰りの活用や、奈良井宿（木曽福島便）～塩尻～松本など魅力的な観光ルートがある。

■需要調査に基づく利便増進施設の整備

- ・利便増進施設の設置にあたっては利用者ニーズと需要量を踏まえる他、場所の制約・水回りといった課題も踏まえて検討頂きたい。
- ・新たに設ける利便増進施設についてバス乗降からの導線・案内計画をよく検討して対応されたい。
- ・施設に応じて、案内計画について考える必要があり、現状でも分かりやすい表示を心がけている。
- ・新しい施設の配置などにあたっては、検証・改善といったプロセスを共有の上、分かりやすいバスターミナルを目指す必要がある。

■情報発信設備の強化と修繕等の対応

- ・長期修繕計画については収益の見込みと実績など、細かな点検を行い不確定な要素に対応できるようにしておいて頂きたい。

■貨客混載を活用した地方PRイベントの継続

- ・貨客混載イベントに合わせたデジタルサイネージ等を活用した地域情報発信の連携は有効。
- ・バスタ前歩道を活用して様々なイベントを開催するにあたっては、新宿や地方の関係者を巻き込んだエリアマネジメント団体といった実施体制の検討が必要。

■災害時の役割整理と対応

- ・災害時の情報発信については、平常時にどう発信するかの仕組みを整えておくべき。
- ・改善基準告示等により、災害時等に思ふような臨時便等の運行ができないことも危惧される。災害時等にバスが柔軟に対応できるよう、制度や運用面の検討をお願いしたい。
- ・首都直下地震が発生した際のオペレーションをどうするか、机上訓練なども大事。

■シェアモビリティの需要調査と連携

- ・シェアモビリティについては運転マナー、事故等の問題がある。

■まとめ

- ・様々な企画を打って、多少ゆとりをもちつつ、バスタ新宿に行けば何かあるというイメージがあると利用者全体の底上げにつながる。